

都立世田谷総合高等学校

【校長】 田川 健太 【生徒数】 671名 【学級数】 18学級



【実態・目標】

- <実態>
- 自らの健康への意識が低い。
 - 生涯の健康保持増進できる生活習慣が定着していない。
 - 正しい性情報の収集ができない生徒が多い。
- 生徒の健康を保持増進する資質能力の育成
- 1) 自分を大切にする
 - 2) 他者を尊重する
 - 3) 正しい知識を学ぶ
- 専門家を活用、連携し将来の健康的な人生を送るための思春期の過ごし方について学ぶ。
- ⇒ 食事と体の関係について理解できるようにする。

目標

・自らの健康への意識を高め、生涯健康を保持増進できる資質能力の育成

【課題・改善】

- <課題>
- 保健授業で学んだ知識を活かし、自らの健康課題を解決する力を身に付けることができない生徒もいる。
 - 男女共修で実施する性教育に関する授業展開の方法について
- ➔ 【今後の取組】
- 専門家の積極的活用
 - 関係職員、教科との連携による講演、授業の展開
 - 学校全体で健康教育の充実を図り、生徒の健康を保持増進するための資質能力の育成を目指す。

【取組】

- 保健における授業単元計画（第2学年）
 - 単元 「生涯を通じる健康」
 - 生涯の健康に関する理解促進事業 公開授業
- 教員の指導力向上のために各種研究会へ参加
 - 都保健体育研究会定例会研究会
 - 東京都高等学校保健体育研究会研究発表会
 - 関東地区高等学校保健体育研究大会
- 産婦人科を招へいした公開授業の実施
 - 対象生徒：第2学年
 - 講師：冬城高久氏（産婦人科医）
 - 研修主題：「将来の健康的な人生のために高校生の皆さんに知って欲しいこと」

【成果】

- 生徒の意識に関する成果
 - 「性教育を含めたライフステージごとの健康」について、事前にアンケート調査を実施し、生徒の興味関心、課題を把握した上で授業内容を計画、立案、展開した。1学期実施の授業内容の復習、生涯を通じる健康についての理解、思春期を健康的に過ごす意識が高くなった。
- 生徒の態度に関する成果
 - 事後のアンケート結果より自己の健康への意識を高め、思春期が人生の基礎であることを理解することができた。
- その他（教員の授業改善など）
 - 男女共修における保健授業（性教育）の展開の仕方、工夫
 - 専門家との連携による授業内容の設定の仕方

【取組（詳細）】

○保健における生涯の健康に関する理解と連動した授業展開

- 保健における授業単元計画（第2学年）
「生涯を通じる健康」
- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 思春期と健康 | 2. 性意識と性行動の選択 |
| 3. 結婚生活と健康 | 4. 妊娠、出産と健康 |
| 5. 避妊法と人工妊娠中絶 | |
| 6. 生涯の健康に関する理解促進事業 | 公開授業 |



保健の授業風景

※6の実施については、産婦人科医を外部講師として招へいし、公開授業を実施

○教員の指導力向上のため東京都高等学校保健体育研究会に参加

- ◎東京都高等学校保健体育研究会 定例会研究会に参加
 - ・都保体研研究会保健部のテーマ 「保健授業の効果的指導方法の工夫」
- ◎東京都高等学校保健体育研究会 研究発表会
 - ・関東地区高等学校保健体育研究大会に参加

各研究会、研究発表会に参加し、授業等で活用した。

- ・教科横断型の授業展開の工夫
- ・単元内容の理解とワークシート作成と活用
- ・事前アンケート実施と検証

○産婦人科医を招へいした公開授業の実施

<授業内容>

- I 授業を通じて伝えたい事
 - 1) 自分を大切にする
 - 2) 他者を尊重する
 - 3) 正しい知識を学ぶ
- II 月経に伴うトラブル
- III 妊娠と避妊法
- IV 性感染症とその予防
- V 子宮頸がんとHPVワクチン

<生徒の様子>

- 大変熱心に聞いており、将来の自身の健康について意識を高め、思春期は人生の基礎であることを理解できた生徒が多かった。

<外部人材活用の授業の展開について>

- 事前の準備について、社会背景から見る生涯教育のあり方、思春期における健康保持増進のありかた等について学びを深めることができ、外部人材活用は大変有効であった。



公開授業の様子